

旋律からお囃子へ 「日本の音楽に親しもう」

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力・自己理解

単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年、「A表現」の指導事項(3)「イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。」「B鑑賞」の指導事項(1)「ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。」の内容を受けて設定したものである。

第3学年では、日本の祭り囃子(「花輪ばやし」「小倉祇園太鼓」「神田囃子」と海田町の郷土音楽「熊野神宮祭獅子舞」)の鑑賞を行い、日本の音楽の特徴として太鼓と鉦、笛が使われていて、同じ旋律が繰り返されているということを学習している。また、決められたリズムに3つの音を当てはめて2小節の旋律づくりを体験してきている。本単元では、第3学年での学習を更に発展させて、日本の伝統音楽を比較して鑑賞する中で、日本の音楽の特徴をとらえ、5音音階を用いて旋律やリズム、楽器の音色などを関連付けながらお囃子をつくることをねらいとしている。鑑賞では、北海道民謡「ソーラン節」、岩手県民謡「南部牛追い歌」、富山県民謡「こきりこ」の3曲を扱う。これらの曲では、音楽を特徴付けている要素(旋律の動きや拍の流れ、リズム)や音楽の仕組み(問いと答え、反復、変化)、そして5音音階についておさえることができる。音楽づくりでは、5音音階で2小節の旋律をつくり、つくった旋律をグループ、そして学級で組み合わせる長い旋律をつくる。さらにリズム伴奏やかけ声、合いの手を入れてお囃子をつくることで、鑑賞での学びを生かしていく。これらのことから、日本の音楽のよさや音楽をつくることの楽しさを味わうことができると考える。

○ 児童観

本学年の児童は、音楽科の授業に意欲的に取り組んでいる。児童はこれまでに、音楽づくりの学習において、決められたリズムに音を当てはめて旋律をつくることと、4文字でつくられた3つの言葉のリズムを組み合わせるリズムアンサンブルをつくることを経験してきている。リズムアンサンブルをつくるときは、1拍ごとに区切られた枠にひらがなを記入するものだったので、リズムを読むのが苦手な児童も苦手意識をもつことなく、学習を進めることができた。

リコーダー奏や合奏のとき、すぐに譜読ができる児童は少数で、階名を記入しないと演奏できない児童は80%にもものぼる。また、リズムをすぐに読み取ることができる児童は、半数未満で新しい曲を演奏するときは、練習前にリズムと音の確認をする必要がある。今回、自分でリズムも音も決める音楽づくりは初めてなので、かなりの児童がつまずくと予想される。リズムや音を読むのが苦手な児童も楽しく学習するための手立てが必要である。

○ 指導観

課題の設定では、第3学年で鑑賞した海田町郷土の音楽「熊野神宮祭獅子舞」を聴かせ、日本の音楽の特徴について振り返らせる。そして、既習の3つの音での旋律づくりを再度体験させその学びを生かして4年生ではどんなことができるのかを問いかけ、旋律をつなげてお囃子をつくり、校内放送で流して全校児童に聴いてもらうという学習課題を設定し学習意欲を高める。

旋律づくりでは、ミュージックボードを使って旋律づくりを行う。ミュージックボードとは、4種類の音符カードをボード上で操作しながら2小節分の旋律をつくることのできる教具である。そのミュージックボードには、一拍ごとに補助線を入れ、且つ、音符カードの長さもそのボードにきっちりハマる大きさのものを用意する。そうすることで、音符の長さをよむのが苦手な児童も、音符の長さが視覚的に理解できるので、楽しく旋律をつくることできると考える。楽譜に記譜する際は、ミュージックボードと5線譜を上下につなげた形のワークシートに、ミュージックボードの音譜をそのまま下にスライドさせて音符を書けるようにする。5線譜には、5つの音に印をつけておき、記譜するときにスムーズにできるようにする。つくった旋律をグループでつなげる際には、リズム伴奏を加え、楽器も選ばせてお囃子にしていく。最後に、グループでつくった旋律を学級でつなげてお囃子を完成させ、校内放送で流して全校児童に聴いてもらうことで、自分たちのつくったお囃子のよさや他クラスのつくったお囃子のよさを味わえるようにする。

振り返りでは、つくったお囃子の音源を再度流して聴かせ、客観的に自分達の演奏を振り返らせることで、自分たちがつくったお囃子のよさやお囃子をつくる面白さに気付かせたい。

単元の目標及び内容について

- 日本の音楽に関心をもち、日本の音楽の特徴を感じ取りながら、聴いたり表現したりしようとする。
【関心・意欲・態度】
- 日本の音楽の特徴や音楽の仕組みを手掛かりとして、思いや意図をもって5音音階の旋律をつくってつなげることができる。
【音楽表現の創意工夫】
- 5音音階の旋律に合うリズム伴奏や楽器を選び、友達の楽器の音を聴きながら、自分の音を合わせてお囃子を演奏することができる。
【音楽表現の技能】
- 日本の音楽の雰囲気や特徴を感じながら、民謡を聴いたり表現したりして、我が国や郷土に伝わる音楽に親しむことができる。
【鑑賞】

単元の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
日本の音楽に関心をもち、日本の音楽の特徴を感じ取りながら、聴いたり表現したりしようとしている。	日本の音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを手掛かりとして思いや意図をもって旋律をつくったりつなげたりしている。	5音音階の旋律に合うリズム伴奏や楽器を選び、友達の楽器の音を聴きながら、自分の音を合わせてお囃子を演奏している。	音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらが醸し出す日本の音楽の雰囲気を感じ取りながら、日本の音楽に親しんでいる。

単元で育成したい資質・能力

	A	B
【主体性】	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことや聴き取ったことを進んで言葉や体の動きで表そうとしている。 ・思いや意図をもち、旋律やお囃子をつくることに意欲的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことや聴き取ったことを進んで言葉に表わそうとしている。 ・旋律やお囃子をつくることに意欲的に取り組もうとしている。
【思考力】	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞曲の音楽を特徴付けている要素（旋律の動き、拍の流れ、リズム）や音楽の仕組み（問いと答え、反復、変化）を比較し、日本の音楽の特徴をとらえ、旋律やお囃子づくりに生かせることを考えている。 ・旋律の動きとリズムを関連付けながら、思いや意図をもって旋律をつくったりつなげ方を考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞曲の音楽を特徴付けている要素（旋律の動き、拍の流れ、リズム）や音楽の仕組み（問いと答え、反復、変化）を比較し、日本の音楽の特徴をとらえている。 ・旋律の動きとリズムを関連付けながら、旋律をつくっている。
【自己理解】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がつくった旋律、グループでつくったお囃子のよさやお囃子をつくる面白さ、自己の成長に気付き、その後も旋律づくりをしたり、5音音階の曲を見付けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がつくった旋律、グループでつくったお囃子のよさやお囃子をつくる面白さに気付いている。

指導と評価の計画

全9時間

次	時	学習内容	評価					
			関	創	技	鑑	評価規準	評価方法
一	1	<p>課題の設定（1）</p> <p>○第3学年の学習を想起し、お囃子をつくりたいという意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3学年で鑑賞した海田町郷土の音楽「熊野神宮祭獅子舞」を聴き、日本の音楽にはどのような秘密があったのかを振り返る。 ・既習の3つの音での旋律づくりを再度体験し、その学びを生かして4年生ではどんなことができるのかを考える。 ・旋律をつなげてお囃子をつくり校内放送で流して全校児童に聞いてもらうという学習課題を設定する。 ・ゴールの見通しをもち、学習計画を立て、単元で付けたい力について考える。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・お囃子をつくることに意欲をもち、単元で付けたい力について考えようとしている。 	<p>行動観察</p> <p>発言</p>

次	時	学習内容	評価					
			関	創	技	鑑	評価規準	評価方法
二	2	<p>情報の収集・整理・分析（3）</p> <p>○民謡を2曲鑑賞し、日本の音楽の特徴を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道民謡「ソーラン節」、岩手県民謡「南部牛追い歌」を聴き、感じ取ったことや聴き取った音楽の特徴（旋律の動き、拍の流れ、リズム）や音楽の仕組み（問いと答え、反復、変化）を比較する。 ・旋律を歌ったり手拍子をしたりして、楽曲の違いを感じ取る。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みを聴き取って比較し、日本の音楽の特徴を見付けている。 	<p>発言</p> <p>ワークシート</p>
	3	<p>○富山県民謡「こきりこ」や既習の音楽を聴いたり表現したりすることを通して、5音音階が日本の音楽独特の雰囲気醸し出していることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こきりこ」を前時に学習した民謡と比較しながら、音楽の特徴や音楽の仕組みをとらえるとともに、階名で旋律を歌い、5つの音でつくられていることに気付く。 ・既習の5音音階でできている音楽（「日の丸」「ソーラン節」「茶摘み」と5音音階ではない音楽（「山のポルカ」「ドレミの歌」「子どもの世界」）を各グループ1曲ずつ分析し、歌ったり表現したりして交流し、5音音階が日本の音楽独特の曲想を醸し出していることを実感する。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の音楽と既習の音楽を比較し、5音音階が日本の独特の雰囲気をかもし出していることに気付いている。 	<p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
	4	<p>○「こきりこ」にリズム伴奏をつけて、リズム伴奏もお囃子の重要な要素であると知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム伴奏の例を参考にしながら、どのようなリズムが適しているのか考え、リズム伴奏をつくり、楽器の組み合わせも考える。 ・グループごとに歌とリズム伴奏を合わせて発表し、リズムや楽器の音色の違いにより曲の雰囲気が変わること気付く。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムや楽器の音色によって、曲の雰囲気が変わること気付いている。 	<p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
	5	<p>創造（3）</p> <p>○4種類の音符を組み合わせて、旋律のリズムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージックボード上に、4種類の音符を組み合わせて、旋律のリズムをつくる。 ・つくったリズムを口ずさんだり手拍子をしたりして正確なリズムをつかむ。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・4種類の音符を組み合わせて、2小節分のリズムを正しくつくっている。 	<p>ミュージックボード</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>
	6	<p>○つくったリズムに音をつけて旋律をつくり、小グループで旋律をつなげて演奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージックボード上に5音音階の2小節の旋律をつくり、小グループで旋律をつなげて演奏し、日本の音楽の曲想に親しむ。 ・つくった旋律を5線譜に記譜する。【本時】 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きとリズムを関連付けながら、思いや意図をもって旋律をつくらせている。 	<p>ミュージックボード</p> <p>ワークシート</p> <p>行動観察</p>

次	時	学習内容	評価					
			関	創	技	鑑	評価規準	評価方法
二	7	<ul style="list-style-type: none"> ○つくった旋律をグループでつなげて、お囃子をつくる。 ・旋律のつなげ方を考えて一つの旋律にし、その旋律に合うリズム伴奏を選んだり、かけ声や合いの手を考えたりしてお囃子をつくる。 		○			<ul style="list-style-type: none"> ・つくった旋律に合うリズム伴奏や楽器を選んで、演奏している。 	ワークシート 発言 行動観察
	8	<p>表現（１）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループでつくったお囃子をさらに他のグループとつなげてお囃子をつくり演奏する。 ・グループでつくったお囃子のつなげ方を考え、演奏できるように練習する。 ・つくったお囃子を演奏し、よさや面白さを交流する。 			○		<ul style="list-style-type: none"> ・友達の音を聴きながら自分の音を合わせてお囃子を演奏している。 	ワークシート 行動観察
		<p>実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お昼の放送で、学級でつくったお囃子を発表する。 						
三	9	<p>振り返り（１）</p> <p>学びのモニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・つくったお囃子を再度聴き、日本の音楽を聴いたり、お囃子をつくったりする面白さに気付く。 ・単元の初めに立てた「ゴールの見通し」の視点でつくった旋律とつくったお囃子を基に自らの学びを振り返る。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・お囃子をつくる活動を振り返り、音楽を聴いたり、つくったりする楽しさに気付いる。 	ワークシート 行動観察

本時の学習

(1) 本時の目標

- 旋律の動きとリズムを関連付けて、思いや意図をもって5音階の2小節の旋律をつくることができる。

(2) 本時の評価規準

- 旋律の動きとリズムを関連付けて、思いや意図をもって5音階の2小節の旋律をつくっている。

【音楽表現の創意工夫の能力】

(3) 本時の学習展開（6時間目／全9時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力
1 本時の学習課題を確認する。 めあて _____ 旋律の動きとリズムを結び付けて、5つの音でお囃子の旋律をつくろう。	◇前時につくった旋律のリズムをいくつか紹介し、手拍子をしたり口ずさんだりして、リズムに音を付けることの意欲を高める。	
本時のゴールの見通し A ：旋律の動きとリズムを関連付けてお囃子の旋律をつくり、どんな工夫をしてつくった旋律であるか説明している。 B ：旋律の動きとリズムを関連付けてお囃子の旋律をつくり、どんな工夫をしてつくった旋律であるか自分の思いや考えを書いている。		
2 5音階の2小節分の旋律をつくる。 ○旋律をつくるときは、どんな工夫をしますか。 ・明るい旋律をつくるために、高い音から始める。 ・踊りたくなる旋律をつくりたいので、5つ全ての音を使う。 □思考の場の工夫 関連付ける 旋律の動きとリズムを関連付けて、リズムカードをミュージックボード上に置いて操作する。	◇拍に合わせてつくった旋律をリコーダーで確かめられるように必要に応じてメトロノームを鳴らす。 ◆つくった旋律をリコーダーで吹くことができない児童には、教師と一緒に旋律を吹いて音とリズムのイメージをもたせる。	
3 小グループでつくった旋律をつなげたり、重ねたり、輪奏したりして日本の音楽の曲想に親しむ。 ○友達と旋律をつなげてみて気付いたことは何ですか。 ・つなげてみるとお囃子の音楽みたいになった。 ・どの旋律も日本の音楽の雰囲気が出ている。	◇いくつかのグループの演奏を発表させて、気付きを交流させる。 ◆リコーダーを吹けない児童は、同じグループの児童と一緒に吹いてもらうように声掛けをする。	

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p>
<p>4 本時の学習のまとめをする。</p>	<p>◇つくった旋律を5線譜に記譜して楽譜に残す。</p> <p>◇どのような思いや意図でつくった旋律であるか、また、友達と旋律を交流してどのような気付きをもったかを振り返りの視点として黒板に示す。</p>	<p>◎旋律の動きとリズムを関連付けながら、思いや意図をもって旋律をつくらせている。〔音楽表現の創意工夫の能力〕(ミュージックボード・ワークシート・行動観察)</p>
<p>★めざす児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8分音符を多めに使って動きの多い旋律をつくり、わくわくする感じを表しました。旋律をつなげてみると、どの順番でも日本の音楽らしさが出ていました。 ・ 明るい旋律をつくりたかったので、5音のなかで一番高い音のレから始めて、細かいリズムを多く使いました。小グループで旋律をつなげてみると、お囃子の音楽に聞こえました。 		
<p>◇次時は、友達のつくった旋律とつなげ方を考えて、グループでおはやしをつくることを確認する。</p>		

(4) 板書計画

旋律から おはやしへ

めあて

せんりつの動きとリズムを結び付けて

5つの音のおはやしのせんりつをつくらう。

<こんなせんりつを作りたい> → <こうしよう>

- ・ わくわくするような
- ・ 明るい
- ・ 楽しい

- 5つの音を使おう
- 高い音をたくさん使おう
- 低い音から高い音へ上がっていきようしよう

<振り返り>

視点

- ・ どんな思いや考えで？
- ・ 友達とせんりつをつなげてみて…

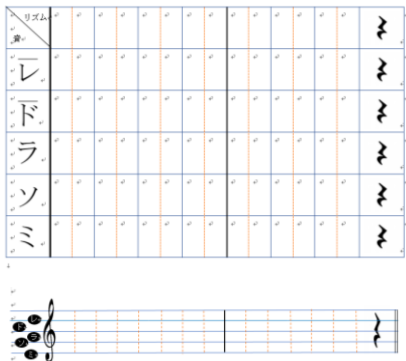
- ・ わくわく→8分音譜の多い旋律
- 日本らしさ
- ・ 明るい旋律→高いレから始まる細かいリズム
- おはやしの音楽に聞こえた

ゴールの見通し

A 説明できる

B 思いや考えを書くことができる

○ミュージックボード



学びのモニタリング

せんりつからおはやしへ

「日本の音楽に親しもう」

四年 組 ()

主体性・・・チャレンジする力

鑑賞曲をきいて、感じたことやきき取ったことを言葉で表したり、せんりつやおはやしをつくったりすることに意よくをもって取り組んだか。

5 4 3 2 1

Empty rectangular box for student response.

思考力・・・しっかり考える力

せんりつの動きとリズムを関連づけ、思いや意図をもってせんりつをつくったり、つなげ方を考えたりしたか。

5 4 3 2 1

Empty rectangular box for student response.

自己理解・・・自分のよさや成長に気付く力

自分がつくったせんりつやグループでつくったおはやしのよさやおはやしをつくる面白さに気付けたか。

5 4 3 2 1

Empty rectangular box for student response.

学習をふり返って

Empty rounded rectangular box for reflection.

これからの生活で生かして
いきたいと思うこと

Empty rounded rectangular box for future goals.